



# 八王子盲学校だより



令和8年7月発行 第4号  
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

## 1 学期を振り返って

副校長 落合 隆一

令和8年度も3か月が過ぎました。今年度は、学校経営計画にてお示しさせていただいたように、学校経営の大きな柱として、「募集対策の強化」「多摩地域の視覚障害教育センター校としての使命の深化」の2つを掲げ、教育活動の更なる充実に向けて取り組みを進めております。

この2つの柱は、ともすると対外的な視点のみに着目しているように感じられるかもしれませんが、これらの取り組みを充実させていくには何より本校幼児・児童・生徒に対する教育の充実が不可欠です。その視点も踏まえ、今年度に入ってからの取り組みを振り返り、御紹介いたします。

### 【交流活動の充実】

5月に、中学部が宮城県立視覚支援学校と、6月には中学部、高等部普通科が台湾の台中市立啓明学校と直接の交流活動を行いました。どちらも本校に訪問いただき、互いの学習活動の紹介や音楽の発表、美術の授業で作成したプレゼントの贈呈などで交流を深めました。当日の交流場面は臆せず関わろうとする「コミュニケーション」の力、事前の準備はまだ出会わぬ相手を大切にもてなそうとする「想像」の力を育みます。単に経験を増やすというだけでなく、将来に向けてつけていきたい力の育成という、キャリア教育の視点から見ても、良い機会となりました。

### 【宿泊行事】

中学部移動教室、修学旅行、小学部移動教室と3つの宿泊行事を実施しました。私も3つの行事に同行させていただきましたが、調理、陶芸といった実際に手を動かす体験のほか、中学部修学旅行では東日本大震災の被災地である石巻を訪れ、小学校の見学や現地の視覚障害のある方から体験談を聞くなど、貴重な時間を過ごしました。皆で協力すること、身の回りのことを自分でがんばって取り組むこと、「楽しい」気持ちをとなりの友だちと共有することなど、活動の一つ一つの意味をあらためて感じました。学期をまとめるこの時期に、あらためてお子様と対話の機会をもつなど、御家庭での振り返りもぜひお願いいたします。思い出すことが学びの定着につながります。

### 【学校の取り組み】

日々の欠席連絡や保護者会等の参加とりまとめなどのデジタル化の推進、医療機関との連携の強化（地域の学齢期のお子さんの情報共有など）、理療科臨床実習の充実（教員も施術をすることで早期の対応開始および対応数を確保）等、多くの取り組みを一步ずつ着実に進め、成果が表れているところも出てきています。また、こうした情報を校内のみならず、積極的に外に発信していけるよう、SNSの取り組みも進めており、毎投稿200～300程度の閲覧をいただいている状況です。今後も教育の充実はもとより、皆さまに実践を広く知っていただけるよう、歩みを止めずに進んでまいります。

## 各学部・科の振り返り

### <幼小学部>

主任教諭 田中 泰美

1学期は、春の遠足や移動教室、水泳指導、夏野菜の栽培など、さまざまな活動に取り組みました。校外での学習では、いつもと違う環境の中で先生や友達と一緒に活動し、楽しい経験を重ねることができました。移動教室では、集団での約束を意識しながら過ごし、一人一人ができることを広げる姿が見られました。水泳指導では、水に親しみながら、それぞれのペースで安心して活動に参加することができました。繰り返し取り組む中で、表情が和らぎ、自信につながっていく様子も見られました。また、夏野菜の栽培では、苗を植えたり、水やりをしたりしながら、植物の生長に関心をもち、収穫の喜びも味わうことができました。日々の学習や行事を通して、子どもたちは新しいことに挑戦し、友達や教員と関わりながら、少しずつ力を伸ばしてきました。2学期も、一人一人のよさを大切にしながら、安心して意欲的に学べるよう支援してまいります。

### <中学部>

主任教諭 吉野 航

中学部は、宿泊行事（移動教室、修学旅行）に加え、交流学習（宮城県立視覚支援学校、台中市立啓明学校、八王子市立館小中学校）など様々な活動に取り組んできました。ここでは、宿泊行事について紹介します。移動教室（1・2年生）では、神奈川・山梨方面へ行き、バーベキュー、陶芸体験、リニア見学、ピザ作りなど様々な活動に取り組みました。特に陶芸体験では、自分のアイデアを形にしようと集中して作業に取り組む様子が見られました。完成した作品は焼成の工程を経て2学期に届く予定です。修学旅行（3年生）では、「防災学習」をテーマに宮城方面に行きました。台風の影響が心配される中での出発となりましたが、無事に仙台駅に到着することができました。日本三景松島では、雨と強風に立ち向かいながら五大堂の見学や笹かまぼこ焼きの体験などを行いました。宿泊先では、簡易担架作り、ロープワーク、心肺蘇生、匍匐前進など様々な防災体験を行いました。石巻では、石巻日日新聞社の記者の方や盲導犬ユーザーの方から東日本大震災当時の様子についてお話を伺うことができました。また、門脇小学校や日和山では、震災遺構を見学したり津波からの避難経路を体験したりしました。このような様々な経験を日々の生活に生かせるように指導を継続し、2学期へつなげてまいります。

### <高等部普通科>

主任教諭 川嶋 拓

高等部普通科は、7名それぞれが確かな歩みを積み重ねてきました。台湾の学校との交流会では中学部と協力し、特に1年生が司会・運営・発表で主体的に活躍する姿が印象的でした。多忙な日々の中でも、日々の積み重ねが着実な成長につながっていることを実感しています。3年生は進路実習を複数回経験し、やり遂げた成就感とともに次への課題を明確にすることができました。学年全体としても互いに支え合いながら、それぞれの役割を果たす姿が見られました。こうした経験を糧に、2学期の行事や学習に向けてさらなる飛躍を期待しています。これから迎える暑い夏に向けて、引き続き体調管理に十分留意し、2学期へとつながる力を養ってほしいと思います。

### <高等部理療科>

主任教諭 野村 利己

理療を学ぶ楽しさは、身体の仕組みや働き、さまざまな疾病や治療法などについての理解を深め、それらを実際の施術に生かせるようになることにあります。入学当初は難しく感じた解剖学や生理学をはじめとする専門的な内容も、学びを重ねるにつれて一つ一つの知識がつながり、「なるほど」と理解できる瞬間が増えてきたことでしょう。実技においても、最初は思うようにできなかった鍼や按摩マッサージの基本技術が、練習を積み重ねる中で少しずつ身に付き、「コツ」ともいえる感覚をつかめるようになったのではないかと思います。1学期の学習を振り返り、うまくいかなかったことや理解が十分でなかったことがあれば、その原因を整理してみましよう。そして、夏季休業中にしっかりと復習に取り組み、2学期の学習に備えてほしいと思います。